



トキメキ投資オンライン教室
(最初の一步編)

第1章
投資の基本
～株・債券・投資信託～

2020年 5月7日
株式会社 トキメキ投資教室
代表取締役 なかまつ小百合

自己紹介

昭和38年生まれ。今年で57歳

セミナーコンテスト京都大会で

投資をテーマの10分セミナーで優勝

元々投資は大嫌い人間

京都生まれ京都市育ち

京都教育大卒業

リクルート・東京海上日動・野村証券と大手3社をわたりあるく。

モットーは

「黄昏色の人生の後半戦をトキメキ色に変えたんねん。」

投資のマインドと投資の楽しさを伝えたい。

株と債券と投資信託の違いは何？

株って何？ ➡ 出資

債券って何？ ➡ 債券

* 上場会社は3713社

(2020.5.1 JPX日本取引所調べ)

* 全国で株式会社は約218万

(2020.5.3 上場企業サーチ)

株式会社が上場するのは0.17%

債券

怖いのは潰れへんかどうか。

そこが一番大事。

それを見るのが

①格付け

②財務諸表

(損益計算書・貸借対照表・キャッシュ
フロー計算書)

投資信託は、株や債券を寄せて集めたもの（往々にしてコスト高し）

株や債券などをたくさん集めてきて、それを小口（100円、1000円）から買えるようにする。

➡すくない資金で、たくさんの企業のパフォーマンスが得られる。

同じテーマで集めたもの。

たくさんの株を集めたもの。

集めてきかたはいろいろや。

株と債券と投資信託。私に合うものは何？

答え➡とにかく全部一度やってみて!

(それぞれの特徴)

株って何？ ➡動き大きい。1/10にも10倍にも。

値動きは需要と供給のバランス。

株の合う方 ➡ロマンチスト。「好き」を追い求める

債券って何？ ➡外債なら、為替の差、金利の差国力の差を反映する。

債券の合う方 ➡浮き沈みを好まない、でも預金の低金利は嫌という方

* マイナス金利とはどんなこと ➡お金を預けるのにお金を取られること

投資信託 ➡たくさん株や債券を集めて小口で買える

➡少額投資で分散でも手数料が高い。

投資信託の合う方 ➡投資信託の、素晴らしい担い手（ファンドマネージャ）を探し求める。

株の楽しさと怖さ

●株の怖さはコレ！ 値下がり・倒産⇒思いもしない

●株の3つ魅力はコレ！

配当⇒配当を出さない会社もある。

利益に対する配当の割合（配当性向）

⇒連続増配を何年も重ねているの会社も

優待⇒楽しい！恋人より律儀なプレゼンター

（食品株・よく行くお店・商品）

売却益⇒一番相場が怖い時が一番儲かる時

※NISA（少額投資非課税制度）をうまく使って！

売却益も配当も非課税になる。

●資産としての取り扱いやすさ、売りやすい資産（比較不動産投資）

債券の楽しさと怖さ

債券の楽しさ 穏やかな実り

債券といえばソフトバンク

新発債（しんぱつさい）・・・新しい債券

* 「目論見書」（会社の財務状況や債券発行の理由がわかる冊子）が発行される。

既発債（きはつさい）・・・中古の債券

債券は定期預金とのせめぎあい。

債券の怖さ

債券の値下がりには、世の中の金利の変動に影響をうける。

世の中の金利が上がる⇒債券の価値が下がる。

世の中の金利が下がる⇒債券の価値が上がる。

最大の怖さは会社が倒産した時、債券はどうなる？

債券の倒産するかどうかは債券の格付け（会社の信用力や支払い能力分析してランク付したものでわかる。

AAA（信用力が最も高くリスクは限定的）

AA（信用力が高く信用リスクは極めて低い）

A（信用リスクは低い）

BBB(中程度の信用リスク。投機的要素も含まれます)

.....

ここからは、不適格格付け

BB（投機的要素、相当の信用リスクがあります）

B（投機的で、信用リスクが高いです。）

CCC(債務者は現時点で脆弱)

CC（債務者は現時点で非常に脆弱）

C

投資信託の楽しさと怖さ

インデックスとアクティブ投信

インデックス投信

日経225・ダウ30などの指数・TOPIX(東京証券取引所平均株価指数・S & P500などを反映する投資信託。

- コスト安い
- わかりやすい

アクティブ投信

人海戦術で、専門家が調査して銘柄を見つけてきたもの。

- コスト高い
- 運用者の腕や、投資方針でパフォーマンスに大きく差がでる。

投資信託のチェックポイント

○さまざまな投資信託

●アクティブ（ファンドマネージャーなど人智で銘柄選択された）投信

●成長型投資信託（分配金をださず、値上がり重視）

●毎月分配型投資信託（毎月お小遣いのように、振り込んでくれるよ）

●テーマ型投資信託（Aiや自動運転・オリンピック関連などテーマで絞る）

○投資信託はコストが決めて！

●買付手数料（買うときの手数料）

●信託報酬（維持しているときの手数料）

●信託財産留保額（売却する時の手切れ金）